

## 源姓 稻守

八幡太郎義家より出稲守勘左衛門某曾孫

## 俊正

将監

東照宮

○伴弥次右衛門共に罷出

伊賀路山越被遊候節○御案内伊勢白

○尾州鳴海ニ於て父子

子迄御供其功を以天正十年六月被召出□

服部半蔵手ニ属申候同国佐野木屋ニ

敵多ク引籠候ニ付九月八日夜忍入御加

勢服部権太夫父子助手ニ松平周防守牧

野新十郎御越ニ而 同月十五日夜落し申候

上意ニ信玄勝頼二代ニ落不申佐野木

屋と 上意被為成候○同年甲州ゑくさ

と申木屋ニ敵数多籠候を○将監父子共

罷出一同相働落申候○同十二年勢

州松ヶ嶋三月十六日ノ同廿六日迄羽柴下

総守ひよさ大膳伊賀之者将監父子共

籠城仕候寄手ニ者 筒井順慶織田上

野介其外数多押寄候其節伊賀之者

多打死仕候後和談ニ相成尾州清洲ニ

在陣仕候○同年前田与十郎御敵申

瀧川後詰仕候節

権現様御発向被遊候節御先伊賀者へ被仰

付瀧川与 船を押留メ 人数を城へ入不申

井伊侍従人数と二丸迄押詰候節伊賀者

多討死仕候を被為遊 上覧鉄之楯三

拾枚被下置相働申候瀧川降参前田腹

切落城仕候此節将監討死五十歳

(上部が切れているので読めない箇所あり)

父と共ニ召出され

入国御供天正十九

年十一月武州ニ於て

永楽五貫文の地を

賜り？慶長五

年景勝押と

てて服部半蔵

岡部内膳皆川

山城守罷在候處

敵地白川城案内

として奈須の者

度々被遣候へ共一人も

をらざる仰ニ付伊賀者

罷越敵地案内見届通り

へ共那須之者共ハ

有之候伊賀者

先被仰付候はば白川落城

ニ手口ニ據ニ掛ケ

仕段結城様へ申上候

所なき働と被仰候然レ處

間ヶ原御勝利ニな？？？れ、白川城落候ても無益と其事止む其後大坂兩御陣迄十二度御陣供奉

地方十六俵三人からの

處与右衛門ハ三十俵二人

ふちニ而被召出候故其

高にて御納戸同心

相勤

同十二年十一月

？九日御譜代金

？領正徳三年

？月十九日三ノ丸

？広敷伊賀者

享保九年九月

？日御勘定奉行支配

？賀者御密御用同

？九年三月進物取次

？番元文二年二月奥

火之番

## 源姓 稻守

八幡太郎義家より出稲守勘左衛門某曾孫

## 俊正

将監

東照宮

○伴弥次右衛門共に罷出

伊賀路山越被遊候節○御案内伊勢白

○尾州鳴海ニ於て父子

子迄御供其功を以天正十年六月被召出□

服部半蔵手ニ属申候同国佐野木屋ニ

敵多ク引籠候ニ付九月八日夜忍入御加

勢服部権太夫父子助手ニ松平周防守牧

野新十郎御越ニ而 同月十五日夜落し申候

上意ニ信玄勝頼二代ニ落不申佐野木

屋と 上意被為成候○同年甲州ゑくさ

と申木屋ニ敵数多籠候を○将監父子共

罷出一同相働落申候○同十二年勢

州松ヶ嶋三月十六日ノ同廿六日迄羽柴下

総守ひよさ大膳伊賀之者将監父子共

籠城仕候寄手ニ者 筒井順慶織田上

野介其外数多押寄候其節伊賀之者

多打死仕候後和談ニ相成尾州清洲ニ

在陣仕候○同年前田与十郎御敵申

瀧川後詰仕候節

権現様御発向被遊候節御先伊賀者へ被仰

付瀧川与 船を押留メ 人数を城へ入不申

井伊侍従人数と二丸迄押詰候節伊賀者

多討死仕候を被為遊 上覧鉄之楯三

拾枚被下置相働申候瀧川降参前田腹

切落城仕候此節将監討死五十歳

(上部が切れているので読めない箇所あり)

父と共ニ召出され

入国御供天正十九

年十一月武州ニ於て

永楽五貫文の地を

賜り？慶長五

年景勝押と

てて服部半蔵

岡部内膳皆川

山城守罷在候處

敵地白川城案内

として奈須の者

度々被遣候へ共一人も

をらざる仰ニ付伊賀者

罷越敵地案内見届通り

へ共那須之者共ハ

有之候伊賀者

先被仰付候はば白川落城

ニ手口ニ據ニ掛ケ

仕段結城様へ申上候

所なき働と被仰候然レ處

間ヶ原御勝利ニな？？？れ、白川城落候ても無益と其事止む其後大坂兩御陣迄十二度御陣供奉

地方十六俵三人からの

處与右衛門ハ三十俵二人

ふちニ而被召出候故其

高にて御納戸同心

相勤

同十二年十一月

？九日御譜代金

？領正徳三年

？月十九日三ノ丸

？広敷伊賀者

享保九年九月

？日御勘定奉行支配

？賀者御密御用同

？九年三月進物取次

？番元文二年二月奥

火之番

## 源姓 稻守

八幡太郎義家より出稲守勘左衛門某曾孫

## 俊正

将監

東照宮

○伴弥次右衛門共に罷出

伊賀路山越被遊候節○御案内伊勢白

○尾州鳴海ニ於て父子

子迄御供其功を以天正十年六月被召出□

服部半蔵手ニ属申候同国佐野木屋ニ

敵多ク引籠候ニ付九月八日夜忍入御加

勢服部権太夫父子助手ニ松平周防守牧

野新十郎御越ニ而 同月十五日夜落し申候

上意ニ信玄勝頼二代ニ落不申佐野木

屋と 上意被為成候○同年甲州ゑくさ

と申木屋ニ敵数多籠候を○将監父子共

罷出一同相働落申候○同十二年勢

州松ヶ嶋三月十六日ノ同廿六日迄羽柴下

総守ひよさ大膳伊賀之者将監父子共

籠城仕候寄手ニ者 筒井順慶織田上

野介其外数多押寄候其節伊賀之者

多打死仕候後和談ニ相成尾州清洲ニ

在陣仕候○同年前田与十郎御敵申

瀧川後詰仕候節

権現様御発向被遊候節御先伊賀者へ被仰

付瀧川与 船を押留メ 人数を城へ入不申

井伊侍従人数と二丸迄押詰候節伊賀者

多討死仕候を被為遊 上覧鉄之楯三

拾枚被下置相働申候瀧川降参前田腹

切落城仕候此節将監討死五十歳

(上部が切れているので読めない箇所あり)

父と共ニ召出され

入国御供天正十九

年十一月武州ニ於て

永楽五貫文の地を

賜り？慶長五

年景勝押と

てて服部半蔵

岡部内膳皆川

山城守罷在候處

敵地白川城案内

として奈須の者

度々被遣候へ共一人も

をらざる仰ニ付伊賀者

罷越敵地案内見届通り

へ共那須之者共ハ

有之候伊賀者

先被仰付候はば白川落城

ニ手口ニ據ニ掛ケ

仕段結城様へ申上候

所なき働と被仰候然レ處

間ヶ原御勝利ニな？？？れ、白川城落候ても無益と其事止む其後大坂兩御陣迄十二度御陣供奉

地方十六俵三人からの

處与右衛門ハ三十俵二人

ふちニ而被召出候故其

高にて御納戸同心

相勤

同十二年十一月

？九日御譜代金

？領正徳三年

？月十九日三ノ丸

？広敷伊賀者

享保九年九月

？日御勘定奉行支配

？賀者御密御用同

？九年三月進物取次

？番元文二年二月奥

火之番

## 源姓 稻守

八幡太郎義家より出稲守勘左衛門某曾孫

## 俊正

将監

東照宮

○伴弥次右衛門共に罷出

伊賀路山越被遊候節○御案内伊勢白

○尾州鳴海ニ於て父子

子迄御供其功を以天正十年六月被召出□

服部半蔵手ニ属申候同国佐野木屋ニ

敵多ク引籠候ニ付九月八日夜忍入御加

勢服部権太夫父子助手ニ松平周防守牧

野新十郎御越ニ而 同月十五日夜落し申候

上意ニ信玄勝頼二代ニ落不申佐野木

屋と 上意被為成候○同年甲州ゑくさ

と申木屋ニ敵数多籠候を○将監父子共

罷出一同相働落申候○同十二年勢

州松ヶ嶋三月十六日ノ同廿六日迄羽柴下

総守ひよさ大膳伊賀之者将監父子共

籠城仕候寄手ニ者 筒井順慶織田上

野介其外数多押寄候其節伊賀之者

多打死仕候後和談ニ相成尾州清洲ニ

在陣仕候○同年前田与十郎御敵申

瀧川後詰仕候節

権現様御発向被遊候節御先伊賀者へ被仰

付瀧川与 船を押留メ 人数を城へ入不申

井伊侍従人数と二丸迄押詰候節伊賀者

多討死仕候を被為遊 上覧鉄之楯三

拾枚被下置相働申候瀧川降参前田腹

切落城仕候此節将監討死五十歳

(上部が切れているので読めない箇所あり)

父と共ニ召出され

入国御供天正十九

年十一月武州ニ於て

永楽五貫文の地を

賜り？慶長五

年景勝押と

てて服部半蔵

岡部内膳皆川

山城守罷在候處

敵地白川城案内

として奈須の者

度々被遣候へ共一人も

をらざる仰ニ付伊賀者

罷越敵地案内見届通り

へ共那須之者共ハ

有之候伊賀者

先被仰付候はば白川落城

ニ手口ニ據ニ掛ケ

仕段結城様へ申上候

所なき働と被仰候然レ處

間ヶ原御勝利ニな？？？れ、白川城落候ても無益と其事止む其後大坂兩御陣迄十二度御陣供奉

地方十六俵三人からの

處与右衛門ハ三十俵二人

ふちニ而被召出候故其

高にて御納戸同心

相勤

同十二年十一月

？九日御譜代金

？領正徳三年

？月十九日三ノ丸

？広敷伊賀者

享保九年九月

？日御勘定奉行支配

？賀者御密御用同

？九年三月進物取次

？番元文二年二月奥

火之番

## 源姓 稻守

八幡太郎義家より出稲守勘左衛門某曾孫

## 俊正

将監

東照宮

○伴弥次右衛門共に罷出

伊賀路山越被遊候節○御案内伊勢白

○尾州鳴海ニ於て父子

子迄御供其功を以天正十年六月被召出□

服部半蔵手ニ属申候同国佐野木屋ニ

敵多ク引籠候ニ付九月八日夜忍入御加

勢服部権太夫父子助手ニ松平周防守牧

野新十郎御越ニ而 同月十五日夜落し申候

上意ニ信玄勝頼二代ニ落不申佐野木

屋と 上意被為成候○同年甲州ゑくさ

と申木屋ニ敵数多籠候を○将監父子共

罷出一同相働落申候○同十二年勢

州松ヶ嶋三月十六日ノ